

通所施設設立準備会経過報告

第1回 平成24年6月23日(土)、14:00～ 登別市民会館会議室

1、会議の趣旨

- 登別からの利用者がフロンティアにも年々増えてきています。遠距離・長時間の通勤は、本人及び家族に時間と経済に大きな負担をかけるだけでなく、通勤途中のトラブルが発生する事も多々あります。

また、地元で生活(就労)の場がないということは、障がい者の姿が地域に見えないことにもつながります。

社会福祉法人ホープフロンティアと登別市手をつなぐ育成会は登別の地域で障がい者が働いて暮らして行けることを願って、登別に作業所を作る話し合いをこの間すすめてきました。

フロンティアはもともと白老町手をつなぐ育成会が立ち上げた作業所です。ですから、登別市手をつなぐ育成会の運営する喫茶ハーモニーの大変さも理解し、この間協力・共同して、喫茶ハーモニーの経営にもあたってきました。

- 基本的に社会福祉法人ホープが登別に新しい作業所を設立するという形をとりますが、登別の関係者のニーズに合わせた作業所になればと考え、登別市手をつなぐ育成会と共同の事業と考えています。また、この作業所は、知的障がい者だけを対象にするものではありませんので、精神、肢体不自由、発達障害等全ての障がい者に開かれた作業所にしたいと考えていますので、登別市の福祉関係者の皆さんにも自分たちのこととして考えていただき、作業所設立のご支援・ご協力をいただければと考えています。
- 障がい者が地域で育ちあうためには、地域で生活する障がい者の姿が見えなくてはなりません。白老町手をつなぐ育成会は、16年前に『全ての子どもが歩いて通える学校へ』というスローガンを掲げ、白老町民の理解を得て実現することができました。その意味では、障害児学級も養護学校も身近に必要なのです。現実には、障がい者が重くなればなるほど地域では育てることができない仕組みになっているのです。地域に働く場を作ることは、障がい者が地域で暮らすための一歩なのです。
- 本来は、行政に障がい者も地域で普通に暮らすことのできる条件を整える責務があると思います。しかし、様々な要因が働いてそうならないのも現実です。そうであるなら、障がい者本人や親等の支援者が、しっかりとした活動拠点をもち、未来を切り開いていくことが必要だと思うのです。フロンティアは白老の活動拠点(ボランティアからの脱出)なのです。

2、フロンティアの基本方針

- 障害種別や障害の程度で差別しない作業所(間口や垣根を設けない)
- 利用者にあった作業を開拓する作業所
- 会員や後援会員の知恵や力を付加価値としてつけることのできる作業所
- 年金と合わせて自立できるだけの賃金を払える作業所
- 元気な信号を発信し続ける作業所

3、自己紹介

- 登別市手をつなぐ育成会
- 登別市障害者団体
- 登別市
- 社会福祉法人ホープフロンティア

4、今回お集まりいただいた各団体、個人からの要望、ご意見を出し合いました。

5、設立準備委員会は本日の賛同者を母体に拡大していく
(今後の日程等は次回に提示)

6、作業所として最低必要なもの

- 作業所
 - ①利用者②職員③場所④作業室⑤事務室⑥トイレ⑦更衣室⑧電話
 - ⑨パソコン⑩インターネット⑪作業機器⑫事務機器⑬送迎用車輛
- 作業種・・・リサイクル(缶、ダンボール) 豆腐屋 パン屋 弁当屋

【 必要な道具類 】 ①圧縮機 ②倉庫 ③トラック

その後の経過

- 第2回 平成24年7月21日(土)、14:00～ 登別市民会館会議室
第3回 平成24年8月21日(土)、18:30～ 登別市民会館会議室
第4回 平成24年9月1日(土)、14:00～ 「喫茶ハーモニー」
第5回 平成24年10月20日(土)、14:00～ 中登別カントレラ
第6回 平成24年12月7日(土)、18:30～ のぼりん



平成24年9月22日：社会福祉法人ホープ理事会で新事業所の開設を承認

新事業所の開設について経過報告と開設の承認を求めた。すでに7月の評議員会及び理事会において登別市の育成会と障がい者団体とホープが協議を進めていると報告しておりますが、現在のフロンティアは定数40のところ満杯になってきており、施設も狭くなってきました。ついてはホープが経営する、フロンティアとは別の新事業所の開設を進めていきたいのでご承認お願いいたします。なお、登別市については関係部及び市長にもお願いしてまいりました。

通信ほほえみ 平成24年9月号

新事業所の開設準備が始まりました

社会福祉法人フロンティアを開設して8年目となりました。たくさんの皆様のご支援と期待により、開設当初20人もいなかった利用者が、50人を超えるまでになりました。皆さんの期待に応えることが出来ているかどうかはちょっと自信のないところもありますが、とにかく私たちなりに走り続けてきた8年でした。

全員が一緒に食堂で食事を取ることも大変になってきたのです。フロンティアの定数増は器の関係からも無理がありますので、新しい事業所がいよいよ必要になってきました。

昨年度企画しました、チャリティー絵画展も3、11があつて途中から震災支援にウエイトを切り替えましたが、もともとは新事業所の開設資金作りが目的でした。

現在、フロンティアに登別市からの通所者が9名います。そこで、新しい事業所は登別市に開設することにしました。今年の春から、登別市手をつなぐ育成会及び登別市障害者団体連絡協議会と連携を図りながら、この間3回の準備会を開いてきました。9月4日には障害者団体連絡協議会の役員さんと登別手をつなぐ育成会の会長さんと社会福祉法人ホープの理事長そしてフロンティアの施設長が登別市の市長さん・副市長さんそして関係職員の皆さんに御挨拶をし懇談することが出来ました。市長さんとの懇談に先だって、障害担当の部長さん次長さんとも懇談することができ、私たちのこれからの計画についてご理解を求めたところです。「事業計画ができましたら、要望を上げていただき検討させてもらいます」という前向きな激励もありましたので、年内には予算を含めた、具体的な青写真を描くことができたらと考えています。

①事業所の場所の確保②事業所の設計（予算）③利用者の仕事（地域の力を借りる）④職員の配置⑤利用者の募集という順番で進んでいくことになると思います。もともと「歩きながら考え、考えながら歩く」事を信条としている社会福祉法人ホープですので、出てきた難題に臨機応変に対応しながら、障がい者や親の声を実現するためにがんばります。

平成24年7月22日：ホープ理事会で新事業所の開設準備を報告

登別の作業所新設準備会の進行状況について新しい事業所を登別に作るという話し合いを進めており7月21日、2回目です。

登別の育成会と障がい者団体とホープが協議を進めています。準備委員会の役員を決めました。別紙通所事業所設立準備会議案書をご覧ください。作業内容についても検討しています。

障がい者の通所施設（働く作業所）開設について

1、障がい者が通所事業所を必要とする訳

社会福祉法人ホープは、白老町の知的障がいのある子どもを持つ親が中心になって、障がい者が地域で普通に暮らせることを願って設立されました。障がい児は小さいときから、自らの障がいと社会的な差別によって二重の荷物を背負わされてきました。

白老町も、就学免除という学校から排除されていた時代から、障がい児の就学が義務化された時代にあっても、長い間、障がい児学級が町内1か所という時代が続きました。それは、兄弟が別々の学校に通うという、健常者にはない負担を、障がい児や親に負わせるものでした。運動会や学芸会は、家族がまた裂きにあったものです。

学童期を過ぎ、高校に行く時代も大変です。障がい児の特別支援学校は、北海道全体が間口になっていて、白老から今金や雨竜といった遠くの学校に行かなくてはならない子もいました。そんな遠くの学校に寄宿して通う子ども達を、金曜日に迎えに行き、日曜日に送っていくのも大変な親の負担でした。熱が出た風邪をひいたと行って、子どもを学校まで向かえに行かなくてはなりません。

やっと高校を卒業したと思ったら、それからがあまり支援のない、長い人生の始まりです。運良く就職できる子は3割程度、しかも運良く就職できたとしても不景気や会社の倒産で行き場を失ってしまいます。そんな障がい者の地域生活を支える目的で作られてきたのが通所の作業所なのです。

2、登別に事業所が必要

少子化と言われて、児童の減少が続いているのに、障がい児学級の数は増え続けています。

登別の人口は、白老の2、5倍ですが、通所事業所の受け入れ枠は白老の半分しかありません。フロンティアだけでも登別から9名が通ってきています。隣のポプリには20名くらい通っているそうです。室蘭や伊達の通所事業所に通っている障がい者も多いのではないかと思います。そして、最も多いのが在宅で家にじっとしていると思われます。

障がいがあってもなくても、人間は社会の中で育てこそ人間らしい一生を終えることができるのだと思います。登別には障がい者が集い・働き・交流し合う場がまだまだ必要だと思うのです。

3、どんな場が必要なのか

登別という人口からすると、数年で30人～40人に通所者が増えると思うのです。ですから器としては、作業室、事務室、男女の更衣室、男女のトイレ、談話室等が最低限必要になります。ですから、できれば50坪以上100坪くらいの広さが最低必要になってくると思っています。

どこを借りるにしても改修は必要になると思っていますので、少々建物が古くても、ある程度の大きさがあればと考えています。

利用者は全ての障がい種別が対象になりますので、バリアフリーに改修することを含め、送迎の必要性や、父母の送迎もありますので、駐車場などある程度必要になります。また、障がいによっては、あまり町中ですと落ち着かなかつたり、交通事故の心配などありますので、ある程度独立した場所が適していると考えています。

4、 貴施設を外から見させていただきましたが、広さは十分にありました。場所も登別温泉から近く（登別温泉のほとんどのホテルから空き缶のご支援を受けています）、喫茶や売店も作業として設けることができるのではないかとかってに夢を拡げているところです。

あの施設であれば、今までの作業所というちょっと暗いイメージではなく、旅の疲れを癒すレストランか、地域の人達が集う作業所という新たな登別だからできる作業所になると思うのです。

5、資金の目処と借用期間

できれば買い取りたいと思うのですが、資金はこれから事業計画がたち次第、会員や後援会員から無利子で借入しようと考えています。今のところ登別市手をつなぐ育成会と社会福祉法人ホープで600万円位しか用意していませんので、運転資金及び改修資金として当面2000万円位の借入金を考えています。

6、この事業の目指しているところ

私たちは施設の運営や営利を目的としていません。私たちが作業所（事業所）を作る目的は、どんなに大変な障がいがあっても、地域社会の中で人間らしく暮らして行ける条件を少しでも整えるという事です。地域の拠点となる大きな一歩がこの作業所（事業所）づくりだと思っているのです。よろしくご検討下さい。お願い致します。